

■令和8年2月26日 定例記者会見内容

- 1 日 時 令和8年2月26日（木）11:00～11:30
- 2 場 所 市役所本庁舎3階 第三委員会室
- 3 出席者 ○市長、副市長、総務部長、企画部長、市民部長、危機管理監、
市長公室長
○酒田記者クラブ／各社
幹事社／荘内日報・NHK

■市長発表事項

1 洗剤などの使用済みつめかえパックの新しいリサイクル活動が始まります（環境衛生課）

市長／洗剤などの使用済みつめかえパックのリサイクルの開始についてです。

本市は令和4年度に、花王グループカスタマーマーケティング株式会社と「住み続けたと思うまちづくり」に向けた包括連携協定を締結しております。

この協定に基づく具体的活動として、洗剤やシャンプーなどの「使用済み詰替パック」を回収し、再び製品の原料等に生まれ変わらせる資源循環活動、花王株式会社が掲げる「リサイクリエーション」を開始いたします。

仕組みとしては、市民の皆様には「すすいで乾かした」使用済みつめかえパックを市役所の回収拠点にお持ちいただき、それを市内にある花王酒田工場が集約してリサイクル原料として活用するものです。

市内に花王株式会社の工場があるという酒田市ならではの強みを生かし、市民・企業・行政が三位一体となって、プラスチックごみを削減し、従来の「もやす」から、同じ製品等に再生する「水平リサイクル」を目指す循環型社会の実現に向けて、新たな1歩を踏み出したいと考えております。

■市長発表事項に関する質問

記者／この取り組みについては、花王株式会社としては、全国でどこかと一緒にやられている先行事例があるのか、どのくらいの回収量でプラスチックの削減を想定しているのかなど目標はございますでしょうか。

市長／全国で他で行っている事例ということですが、全国で酒田以外に13か所行われており、酒田市が14か所目ということになります。

回収量は、特に私は聞いておりませんが、回収拠点は5か所で全て酒田市の施設です。市役所本庁舎、環境衛生課、八幡総合支所、松山総合支所、平田総合所の5か所で集めて環境衛生課から花王の酒田工場へ集約、搬入という流れです。そしてそれを専門の再生拠点へ輸送して、再びプラスチック製品の原料になるということでございます。

■代表質問

1 欠航が相次いでいる定期船「とびしま」の新造に関する市長の考えについて

記者／前回、先月だと思うのですが、定例会見の場でも市長が若干触れられましたが、欠航が相次ぎ、今日も欠航している飛島と本土を結ぶ定期船の新造に関する市長のお考えをよろしくお願いします。

市長／定期船とびしまが就航している酒田～飛島航路は、国内でも有数の強風地域であります。今年度は特に冬型の気圧配置が強く、12月24日から1月18日までの22日間連続欠航を始めとして、欠航が大変多い年であったと認識をしております。

就航から15年を経過いたしました定期船・の代替船を現在検討しておりますが、昨年8月から9月にアンケート調査を実施しております。島民のアンケート調査、それから利用者のアンケート調査、その2つの調査とともに、望むこととして、就航率の改善を求める意見が最も多いという結果となりました。島民の皆様が飛島で安心して生活するためには、定期船の就航率向上が必要不可欠であると、私自身も以前から強く感じておりました。

就航率の向上のためには、一般的には船舶の大型化が最も効果的と言われておりますが、本土以上に人口減少が進んでいる飛島であります。後年の維持管理を考慮しますと、船舶の大型化は、少し難しいのではないかと考えております。

そこで全国の離島航路の約7割の船舶を建造しておりますJ R T T「独立行政法人 鉄道・運輸機構」にいらっしゃる船舶建造の専門家に相談しながら、船舶の大型化とは別の手段で就航率の向上を図れないか、現在検討しているところであります。

記者／検討のおおよその期間、どれぐらいを目途にといったスパンはあるのかということと、15年目の船で、改修・修理・点検など合わせてどのぐらいの期間で、次の船を造らなければいけないのかをお聞きします。

定期航路事業所長／現在「航路改善協議会」を開いております。後年、定期船を更新しても航路が維持できるということを、協議会の中で検討をしております。そこで船を造っても大丈夫ということになりましたら、令和8年度から、船舶の具体的な仕様を決める「建造検討委員会」を開催いたします。

その後、造船所にプロポーザル等いたしまして、次の定期船の定期検査、5年に1回ございます定期検査の前、令和11年度辺りに、新しい船が就航できればという目標で作業を進めております。

記者／今の船の予算なのですが、船を造るのにおよそ7億2000万円かかっているのかなと思っております。鋼材の価格の高騰などで、県の調査船も船建造費が2倍以上になっているというような話もあります。7億、10数億、さらに大きな金額がかかることになるのかなと思うのですが、その辺り市としてどのように考えているのか。その分をどのように確保するのかとか、県や国からどういう補助が見込めるのか、お願いできるのか考えがあったら教えてください。

市長／これは必要な費用ですので、もちろん、なるべく節約して節減してということですが、必要なことですので予算は確保します。

定期航路事業所長／今ご指摘のとおり、鋼材の値上がり、人件費の高騰など船を造るうえで必要な経費は、すでに高止まりで、年5%ぐらいずつ上昇している状況です。

いくらかかるかは、現時点では分からないのですが、今おっしゃったように、県の漁業調査船がかなり高い値段で落札されたという情報は入ってきています。

建造費用は約1割、国から補助が来るということは聞いております。山形県からは、これまで歴代の船を造ったときに、船舶の建造に対して補助金をいただいたという記憶はございません。

建造費用はかなり高額になりますが、財源等はこれから検討いたします。1つ航路改善協議会の中で検討されている意見として、先ほど市長からも説明がありましたJRTT(鉄道・運輸機構)というところで、共有建造方式というものが取られておまして、市の船を検討する初期費用が抑えられる制度がございますので、そういったものも検討しながら、酒田市にとって有利な造り方になるようにしていきたいと考えております。

記者／山形県唯一の有人離島というところもあって、何とか県からお金を引っ張れないかというところもあると思うのですが、その辺りの市長のお考えを伺います。

市長／ぜひ要望していきたいと思っております。船を造るのももちろんですし、通常の定期航路のかかる費用につきましても、全国の事例も見ながら、県に要望していきます。県にぜひ負担していただきたい、するべきものではないかなと考えております。

■フリー質問

1 クルーズ船受け入れの今後の展開について

記者／前々回に発表があったクルーズ船のことでございます。酒田市のホームページを見ると、確か22回でしたでしょうか。去年8回でしたので3倍強になっているので、改めて市長からこの分析等、それから例えばおもてなし、いわゆる経済交流という形の期待などをもう1度お話いただきたいということと、今年のおもてなしの考えは方向性が決まっていれば、その辺を改めてお伺いしたいと思います。

市長／クルーズ船につきましては、まずクルーズ船も含めた観光の誘客、これは非常に重要なことだと思っております。酒田に限りませんが、人口が減少していく中で、私たちの生活を今までどおり豊かに維持していくためには、観光客にぜひ来ていただいて、お金を落としていただくということは最重要課題であると思っております。特に酒田市はそれだけの価値があると思っております。

1月の会見でも申し上げましたとおり、傘福を銀座で展示し評価されています。そのような素晴らしい資源、歴史文化、自然資源、食も酒田が一番おいしいと私は思っておりますので、本当に観光資源を使わない手はないということで力を入れているところです。

その1つとして当然、クルーズ船という港のあるまちにしかできないものがあります。皆様の努力によりまして、今年は20回以上来ていただけるというのは、これまでの酒田港でのおもてなし、あるいは酒田での観光が高く評価されたものと受け止めております。そうでなければこんなに増えないはずですので、酒田は素晴らしいという評価になっている

のでしょう。

そしてそれは、市民の皆さん、おもてなしに関わってくださっている市民の皆さん、事業者の皆さん、そしてそれを支える行政ですね。県や市の職員のおかげだと思っておりますので、まずそのことに深く感謝申し上げたいと思います。

そのうえで、これからの課題は今申し上げましたとおり、経済効果を最大限出していくこと、それをなるべく少ない労力でということです。人口が減っておりますので、おもてなしに関われる時間や人数はそんなに増やせません。これまでの経験を踏まえて効果的にできるように、大きな方針を申しますと可能な限り、市民の力でできるところは、市民の力で、民間事業者の力にお任せしていきたいと思っております。当然これまでの経験の蓄積で、もっとこうすれば効果的だということがありますので、それをぜひ最大限に生かしていただくような形で、民間に任せられるところは民間でと思っております。その辺りは非常に難しいわけですが、バランスよく少ない人数で最大の効果が出せますようにと思っております。

また、経済効果だけではなくて、私の思うクルーズ船のもう1つの目的というのは、やはり来ていただけるだけでうれしいですよ。酒田が評価されていると感じます。外国の方がたくさんいらっしゃるって、クルーズ船が来たときだけは、普段の酒田と違う風景が見られます。子どもたちにとっては生の英語を勉強できる良い機会ですし、本当に楽しい1日になりますので、経済効果も大切ですが、市民の方たちにぜひ関わっていただいて、酒田での楽しい生活を送ってもらえればうれしいなといつも思っております。

地域創生部長／今回の特色としては、ジャパネットクルーズが7回酒田に来るということで、日本人のお客が多くいらっしゃるということです。この辺については、しっかりと次の様々な観光施策につながってくるのかなと思っております。

例えば、ジャパネットクルーズ寄港時には、いわゆる中町の商店街や、中町のにぎわいをつくる「中町にぎわい協議会」というのがあるのですが、普段「さかた北前朝市」を開催して下さっているのですが、ジャパネットクルーズ船が寄港するときには、商店街と連携して、中通りでしっかりとお客様が寄って楽しめるような取り組みもする予定でございます。

現在市内外からの出展者なども募集しているということで、かなり盛り上がっていただけているのではないかと感じております。

シャトルバスにつきましても、通常の外国船クルーズですと、1か所の往復というパターンが多いのですが、ジャパネットクルーズの場合は、ちょっと市内を巡回するようなイメージで、シャトルバスを走らせていただけるということになっております。「山王くらぶ」、それから「SAKATANTO」の前、「みなとオアシス酒田」の前、それから「いろは蔵パーク」の前、駅前というように、市内を循環するようなバスを走らせていただけるということで、今までとは少し違う取り組みの形になります。

2 「アランマーレ山形」本拠地移転前県内での最後の試合についての所感と今後の応援について

記者／マザータウンとなるアランマーレのことをございます。いよいよ3月の下旬に酒田の2連戦が県内最後の試合となります。これまで市も応援してきたチームでもあると思います。本拠地が秋田になるというところについても、お考えを改めて伺いたいと思います。

市長／アランマーレの皆さんには本当に感謝しております。繰り返しになりますが、若い元気な女性たちが、酒田で活躍してくださるだけで本当にありがたいことです。バレーボールはもちろんですが、食育の活動など、特別支援学校も含めていろんな学校で地域貢献活動をしてくださっています。本当に頭が下がるありがたいことだと思っております。これからも私たち酒田市民、山形県民はアランマーレの活躍を応援していきますし、正式には決まってないようですが、庄内、山形といった名前も入るのではないかと以前聞いた記憶もあります。秋田も近いですのでマザータウンとしてこれまでどおり変わらずに応援していきたいと思っております。

記者／酒田のアリーナでの試合について何かお考えがあれば。

市長／これまでどおり応援したいと思っております。私もシーズン中に1回は伺っておりますので、これからも酒田で試合があるときは、必ず1回伺うようにしたいと思っております。市民も同じ思いだと思います。回数が少なくなる分、満席になるのではないのでしょうか。皆さん応援に行くと思います。これまでどおり応援していきますので、ぜひ頑張ってもらいたいと思います。なかなか勝利ができないということですが、そんなに簡単にトップリーグで勝てるはずがないですよ。それも含めてよく頑張ってくださいなと私はいつも新聞を拝見しております。頑張っているのがすごく励みになります。

記者／これまで創設からずっと指揮を執られていた北原監督がチームから外れていると。理由は我々には明かされていないですし、一般に対しても何も明かされていないのですが、いなくなってしまったことについて、何かご連絡・挨拶などがあったのでしょうか。

市長／私ももちろん聞いておりません。ですので、どうしてなのかと本当に同じ思いでおります。

監督のことも大変私はありがたいと前から思っておりまして、北原監督のいつもおっしゃっている、強くて善いチーム、強いチームだけでなく、善いチームというようなこと、あるいは海外でのご経験を踏まえた、いろいろな考え方。こういう方が監督で非常にありがたいなど。だから素晴らしいチームなんだなといつも思っていましたので、本当にどうして離れたのかっていうのは、聞けるときになったら伺いたいと思っております。

3 第四中学校区義務教育学校の整備について

記者／第四中学校区義務教育学校のことなのですが、校名を当初の予定では、2月に決めるということで「〇〇学園」というところまでは決まっているみたいですが、それが4月に延びたということで、今アンケートなどを行っているのでしょうか。締め切りが2月と聞いているのですが校名決定が2月から4月に伸びるという理由はどういうことがあったの

かというのが1つと、校舎を新しく造るため周辺の土地を酒田市で購入するという計画だったと思うのですが、それに関して去年記者会見を開いたときに、大体地権者からは快諾を得ているという説明があったと思います。この辺りは現状、土地の購入に関してはどういう状況なのか、この2点を教えていただけますか。

市長／2つ目の点ですけれども、今その土地の関係がどうなっているのか、報告を受けておりません。おそらく当初の予定どおり進んでいるのではないかと思っておりますが、実際今現状どういう状況にあるのかは教育委員会に確認し、お知らせするようにいたします。

1つ目の点につきましても、最初年度内と聞いておりましたが、確かに途中に変更になりました。これにつきましてもあとからご連絡差し上げたいと思います。

■その他

なし